

1997年度入試要項

1997年度入試日程は下表の通りで、前年度との変更点は以下の通りです。

- ①経済学部・商学部・外国語学部英米語学科で従来の試験方式(96年度はA方式とする)に加え、B方式を新設しました。
- ◆経済学部B方式=国語、英語、地歴(日本史B又は世界史B)、数学から2教科を選択するアラカルト入試です。ただし、地歴と数学の組み合わせによる選択はできません。試験時間は2教科を同時に実施し、120分で行います。選択する教科は出願時の申請となります。

インターネットで世界に向けて情報発信

名古屋学院大学のホームページを公開

名古屋学院大学ホームページアドレス(URL)

<http://www.ngu.ac.jp/index.html>日本語ホームページ

<http://www.ngu.ac.jp/index-eng.html>英語ホームページ

1994年の第5期情報処理システムの導入にともなって整備された学内ネットワークシステムでは、インターネットとの接続を行い、e-mail、ネットニュース、遠隔地のコンピュータ利用など、さまざまなネットワークサービスを提供してきました。

昨年5月からは学外のWWW(World Wide Web)情報へのアクセスが可能となり、さらに、昨年10月には名古屋学院大学のホームページを開設し、インターネットを通じて全世界に向けて情報発信を始めました。

開設した名古屋学院大学ホームページには、大学案内、学部の紹介や研究機関・図書館の情報が満載されています。具体的には、イメージ画像を取り入れた「大学の情景」や「入試状況」「教員公募」「公開講演会案内」など大学からの広報媒体として、また、「研究成果」の発表の場として、学内外に向けて広く情報を発信しています。

ホームページには、学内・国内、さらには海外から、連日のように、多数のアクセスがあります。また、ネットワークのニュース記事やホームページへのアクセス統計情報は、毎日自動更新されており、常に最新の情報を得ることができます。

研究者や教育端末室から全世界の情報にアクセスできる環境を整えたことにより、居ながらにして世界中の情報を得ることができ、研究活動に大きく貢献しています。

また、教育においてもホームページの作成をゼミナールの研究テーマとしたり、学生が個人でホームページを開設するなど、「情報化時代にふさわしい人材を育成する」という目的が活実に実現されています。



- ◆商学部B方式=経済学部B方式とほぼ同様の形式により実施されます。英語が選択科目から外されているのが特徴です。従って国語、地歴(日本史B又は世界史B)、数学から組み合わせ自由で2教科を選択します。試験時間等は経済学部B方式と同様です。

なお、1996年度入試では商学部B方式として実施した簿記1科目試験を、97年度からは簿記特別試験として行うこととし、募集人員も若干増加されました。

- ◆英米語学科B方式=従来実施してきた英語、国語の2教科入試(A方式とする)に加え、英語、国語、地歴(日本史B又は世界史B)の3教科による受験となります。英語のウエイトが高いA方式と異なり、各教科にバランスのとれた学力を持つ受験生が有利になるでしょう。出願期間はA・Bとも同一ですが、試験日が異なるので併願も可能です。

- ②数学の出題範囲=数学は(数学I・数学A)が試験科目ですが、旧課程で履修した受験生との不公平をなくすため、旧課程の(数学I)と共通した範囲に限り出題します。

- ③外国語学部中国語学科の試験会場を3会場から10会場に増設します。

経済学部・商学部					
学科	区分	募集人員	出願期間(学印有効)	試験日	試験地
経済学科	A方式	約210名	1/9~1/23	2月1日(土)	欄外参照
	B方式	約45名	2/10~2/18	2月24日(月)	
商学科	A方式	約20名	1/9~1/23	2月2日(日)	
	B方式	約30名	2/10~2/18	2月24日(月)	
	簿記特別	約20名	1/9~1/23	2月4日(火)	
経済学科	一般推薦	約80名	1996年 11/1~11/1	11月23日(土)	本学
商学科	一般推薦	約60名			

A方式試験地 = 本学・東京・浜松・豊橋・大垣・津・金沢・大阪・岡山・福岡
簿記特別試験

B方式試験地 = 本学・東京・浜松・大垣・津・金沢・大阪

外国語学部					
学科	区分	募集人員	出願期間(学印有効)	試験日	試験地
英米語学科	A方式	約65名	1/9~1/23	2月4日(火)	欄外参照
	B方式	約25名		2月1日(土)	
中国語学科		約30名		2月2日(日)	

外国語学部試験地=本学・東京・浜松・豊橋・大垣・津・金沢・大阪・岡山・福岡

●受験料35,000円



名古屋学院100年の
 20周年を中部経済新聞に
 寄りが連載!!